「自分で作ると美味しいよね！」

学校法人手稲学園　おおぞら幼稚園（北海道札幌市）　［５歳児］

園庭に隣接した農園で、無農薬、有機栽培による野菜の栽培を子どもたちが主体となって行っている。収穫した野菜は全て子どもたちがクッキング（年間 30 回）をして味わっている。ある日５歳児みんなで、ピザを作ることになった。みんなで育てている畑でピザに使う野菜を選び、分担してクッキングを行った。（C・・・子ども）

＜野菜を切るグループ＞

C：「大きさって…これくらい？」　C：「良いと思う」
C：「手！気を付けて！」　C：「小さく切る時は危ないぞ！」
C：「パプリカってピーマン？」　C：「仲間じゃない？」
C：「嫌いな子いるよね？」　C：「私は平気！」
C：「小さく切った方が良いんじゃない？」　C：「なんで？」
C：「いや、嫌いな子いるから…」　C：「大丈夫だよ。美味しいよ！」
C：「きっとピザだったら食べれるよ…」　C：「内緒にしておけば食べれるよ」
C：「内緒はだめだよ…」
C：「一緒に食べれば大丈夫だと思う…」　C：「チーズで隠れるよ！きっと」
C：「あ、そうだね」　C：「じゃあ食べれるね！」

＜生地を作るグループ＞

C：「薄く薄く伸ばして！」　C：「良いと思う」
C：「まだまだ全然薄くないよ」　C：「わかってるって！」
C：「何か違う。もっと上からグッと押して」C：「下の台が動いているんだよ！」
C：「誰か押さえてあげなよ！」C：「私、する！その代わり後で私の押さえてね？」
C：「いいよ」

＜トマトソースを作るグループ＞

C：「よーく混ぜてよ…」　C：「なんで？」
C：「焦げるからだよ！」　C：「違うよ！美味しくなるからだよ」
C：「混ぜた方が美味しくなるんだよね？知ってるー」
C：「違う！焦げたからだよ！な？」C：「焦げないようにと、美味しくなるから！」
C：「そうだ！どっちもだ！」

＜ランチタイムに作ったピザを食べる＞

C：「美味しい！」「レストランのより美味しい！な？」
T：「ソースや生地はどうかな？」　C：「美味しい」「色が綺麗だと思う…」
T：「ソースを作ったグループの人、良かったね」　C：「よーく混ぜたからな！」　C：「そうだよね」
C：「簡単だったよね！」C：「うん、簡単だった」　C：「ピザ（生地）がデコボコしていない？」
C：「ここんとこが、厚くなっているよね…」　C：「うん、ちょっと固いね」C：「うん…ちょっとね」
T：「ピザ生地は、薄く伸ばせたかな？」　C：「ちょっと固いところがある」
C：「…いや！そこが美味しいよ」「そうだ、モチモチして美味しい」「美味しいよ。丁度いいと思う」
T：「皆さん、クッキング上手になったね。もう何でも作れるね」
C：「家でもクッキングしてるもん」　C：「でもこっちの方が美味しい」「皆で作るからじゃない？」
C：「野菜も作ったからだね」　C：「全部作ったからだよね」　C：「全部、自分で作ったからだね」

＜収穫を終えた畑の後かたずけ後…＞

C：「なんにも無くなっちゃったね」「なんか寂しいな…」
C：「そうだね」　C：「腐った野菜も、葉っぱも全部、小さく切って埋めたからね」
C：「ナスが腐っていたから、埋めておいた！虫のご飯だからね」
C：「さっきスコップで掘ったら、ジャガイモがまだ沢山あったよ」　C：「ミミズのご飯になるね」
C：「そうだ、ミミズの分だよ」「来年は、栄養たっぷりだから、また、たくさん野菜、出来るね」
C：「来年は、もっとたくさん野菜を作りたいな」　C：「そうだね」

（みどころ）子どもたちが数々の野菜を育て収穫し、自分たちの手で調理し、味わうという一連の活動を通して、「科学する心」の育ちにつながる様々な体験をしてきたことが読み取れます。
また、このような体験が、野菜の収穫後の後片付けを自分たちで生き生きと行うことに結び付いています。そしてそこでは、新たな気付きや発見があり、次の栽培への意欲を高めています。